

## チャールズ・アイヴズの歌曲における引用旋律の配置

服部 智行

チャールズ・アイヴズの音楽作品における引用には、引用旋律に対してそれとは異なる書法による伴奏が施されている例、あるいは引用を伴う調的な書法から全く異なる書法へと音楽的テクスチャが突然に変化する例などが数多く見られる。本論では、そのような場合に引用された素材がどのような音楽的コンテキストに置かれているのかという問題を取り上げ、アイヴズの作品における引用素材の配置の基本的な傾向を明らかにする。具体的には、引用が指摘されている歌曲を考察対象とし、引用旋律とその周囲の諸要素との関係について、以下の三つの局面に関する検証を行う。第1に、引用旋律と伴奏との同時的な関係。第2に、引用を含む部分と時間的にその前後にあたる部分との継起的な関係。第3に、楽曲全体の中での引用旋律の配置箇所とその機能の問題である。

調的な引用旋律に調性感の曖昧なテクスチャで伴奏を施すこと、引用旋律を含むテクスチャとその前後のテクスチャとの間に明らかな差異を生じさせること、主和音以外の箇所です断ち切られた引用断片のままで旋律を終止させることなどにより、アイヴズの歌曲における引用は、引用旋律の周囲に新たな要素を書き加えて既存の旋律から新たな響きを引き出すこと、あるいは既存の旋律を新たな音楽的コンテキストの中に置き直すことに主眼が置かれている場合が多いと言えるであろう。その一方で、多くの場合アイヴズはそれらを何らかの統一性や形式性を伴う一つの作品として提示していると思われる。そのことは、旋律と伴奏とが完全に分離しているかのように聴取されることを回避するさまざまな配慮や、頻繁にテクスチャが変化する伴奏の非連続性に対して歌唱旋律が連続性を保つことで楽曲全体の統一性を維持するような作曲方法、あるいは冒頭と最後とに同じ引用旋律を配置する構成を多用していることなどからうかがい知ることができる。